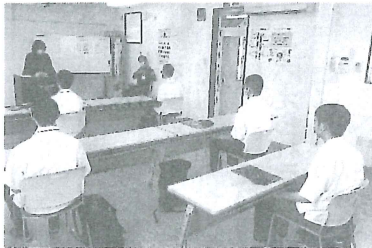


森 発

定着へ「ブラザー制度」
高校生が職場見学

【報告 津軽警備保障】

津軽警備保障(青森県弘前市、山口道子社長)は8月7日、今年度の高校卒業予定者を対象に「応募前職場見学会」を社内で開いた。弘前市内の高校2校から男



山口社長の説明を聞く参加者
(津軽警備保障提供)

子生徒5人が参加した。同社は昨年度から初めて高校生の新卒採用を開始し、今年4月に5人が入社した。採用活動を始める際に、新卒者の育成と早期離職を防ぐ方策として「ブラザー制度」を導入した。

新入社員に年の近い先輩社員が「ブラザー」として付き、業務の指導だけでなく気軽に相談に乗るなどしてメンタル面も気遣うことによって定着の促進を図る取り組みだ。

ブラザーに選ばれた社員は、事前に社内研修を受けて新卒者への接し方、育成の心構えなどを身に付けた上で新入社員を迎えた。入社後の新人に対して同社は、定期的にアンケートを行って「教育は自分に合っていると感じるか」、「職場で大変なことは何か」などについて率直な意見を聞くよう努めている。

今回の見学会に参加した5人のうち4人は、今春入社した社員の高校の後輩にあたる。4人は、同社が高校の就職担当者に送った企業PRのチラシを見て「卒業生がいきいきと働いている会社だと分かったので、警備会社の仕事内容をよく知りたかった」と話した。

見学会では、山口社長が経営理念や社風を説明するとともに「社員の人生を預かる責任の重さを感じて、全力で育成に取り組んでいきます」と強調した。次いで吉田勇太業務部長が警備業務の種類などを説明し、参加者は、施設警備や交通誘導警備の現場を見学した。

地域からのニーズ

吉田部長の話 ブラザー制度を導入したことで、新人をケアして育てようという社内の機運が高まっていると実感する。今回見学した全員が警備業務に一層の興味を持って、来春入社してくれることを願っています。